

2017.02.24：平成29年\_県土整備常任委員会（第1号） 本文

諸般の報告・その他の関係

○委員長（實川 隆君） 次に、諸般の報告・その他について御質問がありましたら御発言願います。

○委員長（實川 隆君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 何点か御質問をさせていただきたいと思います。4点ほどになります。

まず1点目から質問させていただきたいと思います。先ほど野田部長からの丁寧な御挨拶がありました。その中の北千葉道路についてお伺いをしたいと思います。

先日の開通式には、私も、また實川委員長も出席をし、そのほかにも県会議員の皆様方、参加をさせていただいたわけではありますが、天気も非常によく、盛大な開通式であったなというふうな印象が残っております。式典終了後、16時30分に開通したと伺っておりますが、開通後の交通状況等々、どのようなものであったのかお伺いしたいと思います。

○委員長（實川 隆君） 根本課長。

○説明者（根本道路整備課長） 北千葉道路、印西市若萩から成田市北須賀間、4.2キロメートルにつきましては、おかげさまで去る2月19日午後4時30分に無事開通することができました。ありがとうございました。開通直後は、開通を待ち望んでいた車両が集中し、4車線から2車線に変わる吉高の交差点を先頭に、上下線で渋滞が発生しました。また、翌20日の朝夕で渋滞が発生する時間帯がありましたが、信号機の青時間の配分を調整した結果、21日には円滑な交通が確保されたところです。引き続き、交通の流れを注視いたしまして、交通管理者と連携を密にしながら、円滑で安全な交通の確保に努めてまいります。

○委員長（實川 隆君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 本当に御苦労さまでございました。北千葉道路、これからまだまだやらなければならない、全線開通に向けて、皆様方、御苦労が多いかと思えますけど、しっかりやっていっていただきたいというふうに思います。

また、4車線から2車線になるところ、そのところ、信号機の調整で何とか交通渋滞解消できたということで本当によかったなと思っているんですが、今、逆走というのが非常に問題視されておりますよね。その逆走防止対策についてもぜひ検討していただきたいなというふうに思います。2車線でずっと走ってきて、対面通行になりますよね、成田側で。そうすると、向こうから車が、成田側から来ることを一瞬忘れてしまった高齢者の方とか、そういう方が反対車線を走ってしまって大事故が発生するのではないかなとちょっと心配しておりますので、ぜひ逆走対策、防止対策をやっていただきたい、これは要望でございます。

2点目、お伺いします。県立幕張海浜公園の中の設置予定であります、仮称であります、JFAナショナルフットボールセンターの整備についてお伺いをさせていただきたいと思えます。

このナショナルフットボールセンター、これについては、千葉県と公益財団法人日本サッカー協会が協力をして設置するというので、平成27年の9月11日に基本協定を締結したと伺っております。このフットボールセンターは、日本代表、海外代表チームのトレーニングやサッカー教室の開催などにも利用されていると伺っているところでございます。また、2018年にはサッカーのワールドカップ、ロシア大会というのが予定されているわけでございますけども、現在、アジア最終予選が行われて、前半戦の5試合を終えて、日本代表は現在グループ2位で、残り5試合でこの順位を保てれば、6大会連続出場がかなうということで、私もサッカーファンの1人として非常に大きな期待を持っているところでございますが、このフットボールセンターの完成によって、子供たちはこのような一流選手のプレーを間近に見ることができると、そして夢を大きく育むことができると、そして、ひいてはこれは青少年の健全育成にも貢献できると、サッカーを通じたスポーツ振興につながるものと大いに期待をしているところでございます。

ちなみに、サッカーの競技人口というのは、インターネット情報で恐縮なんですけども、2億7,000万人ぐらい競技人口があると、そしてファンは35億人にも達するというような数字もネット上で確認をさせていただいたんですが、オリンピックよりも見る人の数が多いんじゃないかと一説にはあるほどでございます、このようなサッカーの素晴らしい施設ができるということは、そういう世界につながっていくんじゃないかなというふうに思います。

幕張海浜公園では、これまでも各種スポーツイベントが開催されて、隣接する幕張メッセは、これまでもお話がありましたように、2020年東京オリンピック・パラリン

ピックの7競技の会場に決定しております。フットボールセンターが2020年までに完成すれば、あわせて全国に、また世界に千葉の幕張というものの魅力を発信することができる、千葉県のイメージアップにも大きな貢献になるのではないかなというふうに期待をしている1人であります。

そこでお伺いしたいのですが、基本協定締結後、既に1年半が経過をしておりますが、現在の進捗状況はどうなっているか教えていただきたいと思っております。

○委員長（實川 隆君） 佐瀬課長。

○説明者（佐瀬公園緑地課長） 平成27年9月11日に県と公益財団法人日本サッカー協会は、基本協定を締結し、協会では、（仮称）JFAナショナルフットボールセンターの基本計画を検討してきました。また、県、市、協会によりまして、地元住民、企業説明会を実施いたしました。今回一部報道にありましたように、39億5,000万円の計画予算で、協会は見積もりを含む技術提案を公募いたしまして、2020年の春までにフットボールセンターの運用の開始を目指すと聞いております。県では、これまでもフットボールセンターの設置に向けて、千葉市も交えて、地元の意見も伺いながら、協会と協議してまいりました。今後、早期に整備されるよう、関係機関と連携しながら進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○委員長（實川 隆君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ありがとうございます。再質問なんですけど、2020年の春までに運用開始を目指すという今の御答弁でしたが、今後のそれまでのスケジュールということはどういうふうになっているんでしょうか、教えてください。

○委員長（實川 隆君） 佐瀬課長。

○説明者（佐瀬公園緑地課長） 日本サッカー協会は、見積もりを含む技術提案の公募を始めたところですが、ことしの6月ごろには協会において設置を正式決定し、そ

の後、必要な許可手続、工事着手を予定していると聞いております。県といたしましても、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでの整備を引き続き協会に求めてまいります。

○委員長（實川 隆君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ぜひそのような計画、県の考え方が達成できるように、協会と力を合わせて完成に向けて頑張っていたきたいというふうに思います。

3点目、4点目は地元のことで恐縮ですが、質問させていただきたいと思います。

3・11の東日本大震災が発生してから早くも6年が経過をしようとしております。この間、県では九十九里沿岸の津波対策を積極的に推進をしていただいて、本当に感謝しております。私の地元の匝瑳市域では、野手海岸という海岸がございます。そして、新川という川も注いでおりまして、堤防のかさ上げなどの工事が行われているわけではありますが、地域の住民の皆さんが安心して暮らせるためにも、いち早くこの工事を完成させていただきたいというふうに思っているところでございます。

そこでお伺いをしたいと思います。匝瑳市域における海岸及び河川の津波対策の進捗状況を教えていただきたいと思います。

○委員長（實川 隆君） 岩船課長。

○説明者（岩船河川整備課長） 匝瑳市域におきましては、野手海岸及び新川において津波対策工事を実施しているところでございます。まず、野手海岸の津波対策につきましては、野手地区から栢田地区まで、こちらの3.0キロメートルにおきまして堤防のかさ上げを行うこととしております。このうち、2.5キロの区間につきましては、海岸侵食が著しいため、護岸整備を行った後に堤防のかさ上げを実施いたします。進捗といたしましては、今年度末までに1.4キロメートルの護岸整備と0.7キロメートルの堤防のかさ上げが完成する見込みでございます。

また、河川におきましては、新川における津波対策でございますが、河口から新浜大橋までの区間で、左右岸合わせて2.2キロメートルで堤防のかさ上げ工事を進めているところでございます。こちらについての進捗については、今年度末までに概成する見込みでございます。

以上です。

○委員長（實川 隆君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 工事関係者の方の安全を確保しながら、しっかり完成に向けてお願いをしたいと思います。

最後に、もう1点だけ地元の質問させていただきたいと思います。県道八日市場山田線についてお伺いをさせていただきたいと思います。

一般県道八日市場山田線、匝瑳市籠部田地先、私の住んでいるすぐ近く、また住んでいる地域なんです、道路改良については、昨年の9月の委員会でも取り上げさせていただきました。この道路、非常に長い間地域では非常に大きな問題になっている道路の1つでありまして、この委員会でも取り上げさせていただいたわけでございます。この道路、両脇にある施設への影響が小さい線形を検討して関係者へ説明するというので、昨年の9月の委員会でも御答弁をいただきましたが、現在の状況、どのようになっているのでしょうか。

○委員長（實川 隆君） 根本課長。

○説明者（根本道路整備課長） 県道八日市場山田線の籠部田工区につきましては、国道126号に接続はしているものの、一部の用地取得が難航したことから、屈曲した形のままとなっています。この屈曲した線形を早期に改良するため、今年度に入り、沿線の土地利用状況を踏まえ、暫定的な改良計画を検討した上で、関係者との用地交渉を再開し、9月以降、数回にわたり交渉を行ったところです。まずは暫定形での整備に向け、関係者の理解が得られるよう、計画を丁寧に説明し、用地の取得に努めてまいります。

○委員長（實川 隆君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 本当に皆様方の御尽力に感謝をしたいと思います。用地取得というのがこの道路事業にとっては大変重要な部分を占めるわけございまして、ぜひマンパワーを集中して、企業側、土地所有者の皆さんに、この屈曲を解消することの意義

とか、地域の皆様方の要望等をぜひ積極的に強く要望していただいて、直線化を図っていただきたい、強く要望をさせていただき、また感謝を申し上げながら、私の質問とさせていただきます。お願いします。